No.125
2023.12月1日発行

「やってみなけりゃ」で挑戦を

南カリフォルニア大学国際関係学部教授 **片田 さおり 氏（高校34期）**

一橋大学卒。ノースカロライナ大学チャペルヒル校政治学博士
国際連合開発計画メキシコ事務所プログラムオフィサー、世界銀行国際経済部国際金融課研究員を経て現職。
日本語著書
『グローバル・アクターの条件：国際金融危機と日本』有斐閣 2002年、
『アジア太平洋のFTA競争』勁草出版2010年、
『日本の地経学戦略：アジア太平洋の新たな政治経済力学』日本経済新聞出版 2022年

■立高時代の私

テニス部に、演劇コンクール、体育祭など、寸暇を惜しむように忙しい日々を楽しんでいました。２年生の時に一年間、AFS留学プログラムでアメリカに滞在。大好きだった科目は世界史で、自分の中で、将来は「世界を舞台に」何かをやってみたいと夢見ていました。

■卒業後の道のり

一橋大学では開発政策や援助問題を中心に国際関係を勉強し、国連職員を目指すべくアメリカ（ノースカロライナ州）の大学院に進みました。大学院では経済・国際関係及び国連公用語でもあるスペイン語を学び、願い叶って国連開発計画（UNDP）のメキシコ事務所に２年間JPO（Junior Professional Officer）として勤務しました。

大学での講義

その後、世界銀行でも仕事したのですが、国際政治経済学の研究の方がどんどん面白くなってきたため、当初の目標であった国際機関ではなく、アメリカの大学で研究をつづける道を選ぶことになりました。専門は日本の対外経済政策や、アジアの金融・貿易・投資の分析です。大学での日本関係の講義のほかにも、世界国際関係学会の副会長を務めるなどし、日米における研究者・学生交流の懸け橋役も果たしています。また、これからの世界を背負う若い世代の国際関係学研究者を育成することにも、今後力を入れていきたいと思っています。アメリカの学会には、学問・研究の自由を尊み、活発に議論をする風土があります。自分の意見をはっきり主張し、また、相手の違った考え方も尊重する。議論に疲れることもありますが、知的な刺激の絶えない環境で、自分のやりたい研究を続けられるというのは、とても恵まれた人生だと思っています。

■立高生へ向けて

アメリカの大学院で研究を始めた頃、「あなたは“知的な面で恐れをしらない(intellectually fearless)”から研究者に向いているんじゃないか」と恩師に言われたことを、印象深く覚えています。Fearless（大胆不敵とも訳す）というのは、多分、失敗を恐れない大胆さを言うのでしょう。若さは、未知の可能性を持つという意味で、大きな強みです。大胆に何にでも挑戦してみてください。
やってみなければ何も始まらないのです。

南カリフォルニア大学（USC)キャンパス

立高生のUSC訪問を歓迎して